

議会だより

簡易水道第二次拡張
工事請負契約締結

第一回臨時議会

昭和六十年第一回臨時議会が五月十四日、会期を一日限りとして開かれました。

審議された議事は、補正予算の専決二件、条例改正の専決二件、契約一件の計五件でそれぞれ次のおり決まりました。(以下審議の概要)

◎報告第二号 専決処分の承認を求める件(昭和五九年度一般会計補正予算第八号)

老人保健特別会計の医療費不足を補てんするため繰出金を専決したもので、当該繰出金二二〇万円のほか地盤沈下対策事業負担金減その他で一七五万四千円を追加し、総額を一億二三八万八千円とするものです。この財源として自動車取得税交付金一〇〇万六千円、預金利子六四万四千円、また予備費四〇万を充当しました。

(原案承認・全会一致)

◎報告第三号 専決処分の承認を求める件(月満村国民健

認を求める件(昭和五九年度老人保健特別会計補正予算第三号)

前述のように医療費不足を補てんするため一般会計から予算を繰入れたもので、繰入金二二〇万円のほか支払基金交付金六八万六千円を追加し、総額を一億六、一九八万六千円としたものです。

(原案承認・全会一致)

◎報告第四号 専決処分の承認を求める件(月満村税条例の一部改正)

この条例改正は国の地方税法の改正に伴うもので、県民税七〇〇円(現行五〇〇円)、村民税一、五〇〇円(同一、〇〇〇円)に改正になりました。また所得割についても併せて改正になっています。

(原案承認・全会一致)

◎報告第五号 専決処分の承認を求める件(月満村国民健

康保険税条例の一部改正

国民健康保険税は、低所得の方のうち総所得額が二六万円に満たない場合は税額の六割を(六割軽減)、また二六万円に世帯主を除く被保険者一人当り一九万円を加算した額に総所得額が満たない場合(例一四人世帯では八三万円)は四割を減額(四割軽減)することになっていますが、今回の改正で四割軽減の場合の加算額一九万円が一九万五千円になったものです。

(原案承認・全会一致)

◎議案第二五号 月満村簡易水道第二次拡張事業浄水設備改良工事請負契約の締結について

本件は浄水場拡張工事に伴う機械・ポンプ設備等工事の請負契約を結ぶために議会の議決を求めるもので、新潟市の新潟企業株式会社との間で六、八〇〇万円で請負契約を結ぶものです。

(原案可決・全会一致)

※参考 工事又は製造の請負契約は予定価格三、〇〇〇万

円以上、財産の取得又は処分をするときは予定価格七〇〇万円(土地の場合は五、〇〇〇㎡以上)のものに係わるものに限る。) 以上の契約をするときは、議会の議決が必要です。

防犯灯を寄贈

「月寿荘」に電磁調理器も

東北電力

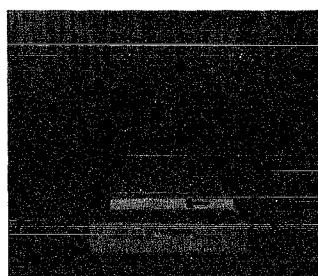
東北電力の春のサービス旬間が去る五月二十七日から六月五日まで開催されました。巻営業所でも多様なサービス行事を展開。管内の小・中学校のプールの電気設備点検や、月満村を中心に家庭内の電気設備の安全点検等を実施。また、当村に対し、省エネ型蛍光灯(20W一灯用)

目録を贈呈する阿部東北電力(株)巻営業所長

十灯と、月寿荘に電磁調理器一台を寄贈されました。村では早速地域の実態を勘案しながら効果的に設置し、防犯や交通事故防止に役立てることにしております。電磁調理器も利用者へ喜ばれております。

ありがとうございました。

寄贈いただいた防犯灯と電磁調理器

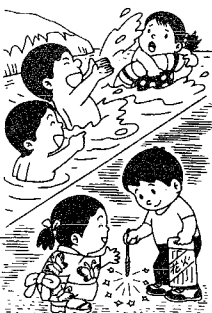


大人の油断が事故を呼ぶ

水と花火を安全に

夏になると、昼間は水泳、夜は花火を楽しむお子どもも多いことでしょう。どちらも夏とは切っても切れない縁のあるものですが、ちょっと親が

油断をすると事故につながるということを忘れてください。子供たちに夏を楽しく安全に過ごさせるために、保護者や大人はどうすればよいかを考えてみましょう。



夏になると、庭先での花火は蒸し暑さを一瞬忘れさせてくれるものです。しかし、家庭で手軽に扱っている花火も原料は「火薬」。ちょっと間違った扱い方をすれば、火事ややけどなど思わぬ事故を起こします。

1 場所選び

空を飛んだり、火花が吹き出す花火で遊ぶときは、広い場所を選んでやりましょう。住宅の

水の事故

夏は交通事故よりこわい

子供「泳ぎにいくつくるよ」母「車に気をつけるんだよ」夏の昼間の会話はです。でも、ちよつとまづけてください。夏に限ると、交通事故より水の事故のほうが多いのです。ですから、もう一言「泳ぐ場所にも気をつけるんだよ」とつけ加えてください。

花火の事故 原料は火薬です



夏の夜、庭先での花火は蒸し暑さを一瞬忘れさせてくれるものです。しかし、家庭で手軽に扱っている花火も原料は「火薬」。ちょっと間違った扱い方をすれば、火事ややけどなど思わぬ事故を起こします。



大人の注意力が 事故を防ぐ

子供たちを水の犠牲者にならないために保護者や大人は、次のような点に十分注意してください。

2 大人も一緒に

子供だけで花火をしていると、万一紙くずが火が燃え移っても適切な措置がとれなかったり、服に火が着いてやけどをすることがあります。花火をするときには必ず大人が付き添いましょう。

3 説明書は必ず読む

花火に火をつける前には必ず説明書を読みましょう。花火には、それぞれ使い方が異なります。同じようなかつこう

4 近くに水の入ったバケツを置く

花火の燃えがらを確実に消すには水が一番です。そのために水をはったバケツを用意し、燃えつきた花火やマッチは必ずこの中に入れてください。万一、紙くずが火が移ったとしても、この水をかければ直ちに消すことができます。